

津大豆ニュース

～平成 29 年産作柄報告版～



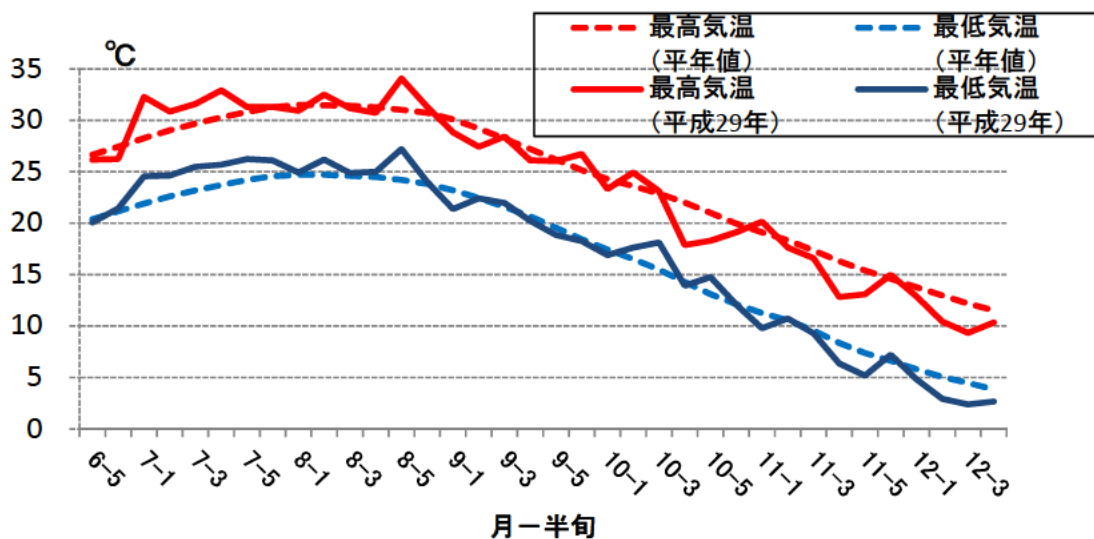
平成 30 年 3 月 12 日

津地域農業改良普及センター TEL : 059-223-5103

気象経過

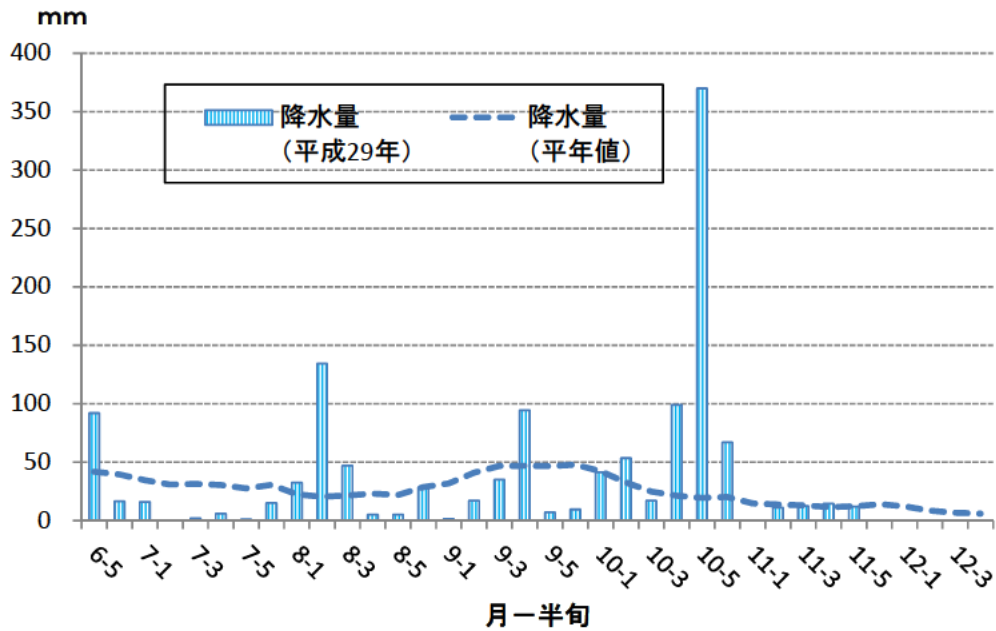
気温

7～8月かけては7月上旬、8月下旬にかなり高くなり、概して平年より高くなりました。9～10月は9月上旬、10月下旬にやや低くなったものの、ほぼ平年並みとなりました。11月以降は平年よりやや低く推移しました。



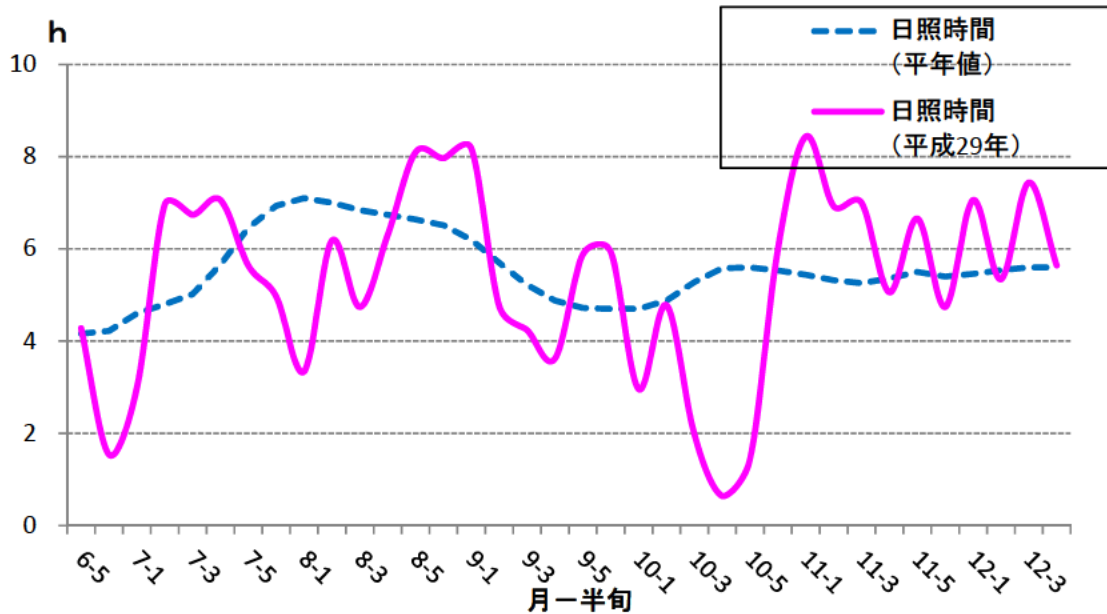
降水量

梅雨入りは6月21日、梅雨明けは7月15日と梅雨期間は短く、7月の降水量は平年の2割程とかなり少なくなりました。8月は台風5号の影響があり降水量は平年の8割増と多くなりました。9月中旬は台風18号の影響で2割増、10月は台風21号、22号の影響や秋雨前線から平年の4倍程と降水量はかなり多くなりました。11月第6半旬以降少雨に経過しました。



日照時間

7月はほぼ平年並みの日照時間でありましたが、ぐずついた天気が多くありました。その後、8月第5半旬まではやや日照不足に経過し、日照時間は平年に対し9割程となりました。9月下旬は日照時間に恵まれましたが、10月は秋雨前線と台風の影響からかなり少なく推移しました。11月以降の日照時間は平年より多く推移しました。



生育経過

<概要>

田内の播種は6月末頃から始まり、降雨量が少なかったため、播種作業は順調に進み、7月後半にはほぼ終了しました。湿害対策（明渠、成畦播種等）が行われているところもあり、雨も少なかったこともあり、出芽・苗立ちは良好でした。しかし、小麦収穫時の轍への停滞水、用水路からの水漏れがあるところでは、部分的な水害による被害も見受けられました。

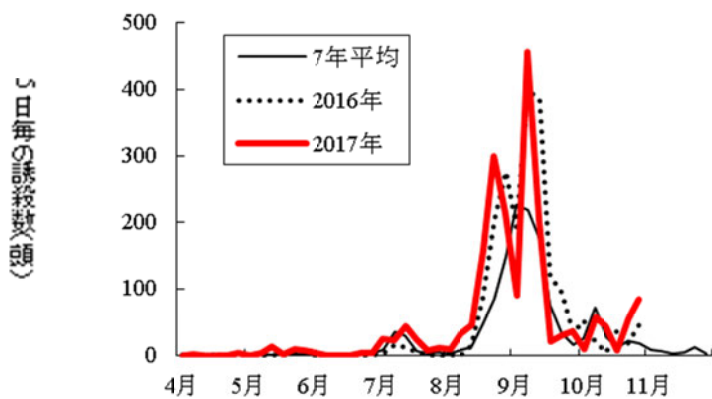
中耕培土作業も実施され、十分な生育量が得られたほ場が多くなりました。開花は早いところで8月20日頃から始まりました。しかし、相次ぐ台風の影響から倒伏しているほ場が多くありました。また一部では、冠水したところもありました。

<雑草>

ホオズキ類、クサネム等が蔓延しているほ場が散見されましたが、帰化雑草類は初期生育が十分に確保されたことから例年に比べ減少しました。

<病害虫>

病害虫として、シロヨトウは白変葉が散見されましたが、多発生したほ場はありません。カンキツヒメヨコバイによる葉の萎縮が1haずつ3か所で発生しました。ナミアオカメムシが台風18号後の9月20日頃から町を中心に多発し、被害粒が多くなり減収につながりました。また、カメムシ類、フタスジヒメハムシによる青立ち株が見られました。



畑地の子察灯におけるミナミアオカメムシ誘殺数の推移(松阪市)

三重県病害虫防除所

<収量>

m²当り総節数、着莢数はやや多くなりましたが、子実肥大期の台風、カメムシ類の多発生から未熟粒、腐敗粒の混入が目立つところが多く、また草姿の乱れ、倒伏から百粒重はやや小さくなりました。収穫は11月15日頃から始まり、年内にはほぼ終了しました。収量は倒伏の影響からコンバイン収穫時の損失が多く、昨年よりは勝るものの平年よりはやや下回りました。1等比率は昨年よりかなり下回り、格付低下要因はしわ粒、汚損粒、未熟粒等となりました。

生育基準ほの成熟期・収量調査結果									
品種	調査地点	栽培様式	栽植密度	成熟期	主茎長	総節数	稔実莢数	子実重	百粒重
			本/m ²	月日	cm	節/m ²	莢/個	kg/10a	g
フクユタカ	安濃	狭畦	22.7	11月11日	69.2	555	32.3	225	27.6
	一志	中耕培土	12.9	11月7日	82.5	409	50.6	218	30.6

検査等級比率(%)			
	1等	2等	3等
H29年産	19.9	39.3	31.2
H28年産	44.9	24.3	23.5

次作以降の対策

作業

早めの準備を心がけて、適期作業に努めましょう。麦作跡では、明渠の点検を行うなど、播種前後に雨水が停滞しないよう排水対策に努め、7月10日頃の適期に播種しましょう。

雑草管理

帰化アサガオ類、ホオズキ類、ホソアオゲイトウ等の強害雑草の発生が増加しています。これらの強害雑草は、収穫作業に影響を及ぼすとともに、汚粒や異物混入の発生の原因となり、品質が低下します。適期の除草剤散布や中耕により、雑草の発生・生育を抑えましょう。また、生育ステージ後半まで残ってしまった雑草については、手で抜き取ることによって、収穫作業・次作以降の対策につながります。

病害虫対策

ミナミアオカメムシ等の吸汁性カメムシ類の発生が増加しています。吸汁性カメムシ類は大豆の子実を吸汁し、未熟粒の発生や不稔莢等の原因となります。被害は、適期に薬剤散布による防除を行うことで抑えられます(9月中旬と10月上旬の2回防除を行うと効果的です)。